

三重大学 人文学部

法律経済学科

「協同組合論」

特殊
講義



本田 英一／日本生活協同組合連合会代表理事会長

日本の生協の歴史～消費者の暮らしと共に歩む～

第14回（1月23日）：受講57名（受講生39名・聴講&スタッフ18名）

生協は消費者や市民の願い、要望を事業活動で実現する組織であり、消費者が自発的・自主的に助け合う組織である。生協の主役は組合員であり事業を通じて組合員の暮らしへ貢献することが第一の目的である。時代ごとに暮らしの困りごとは変化する。今の社会をよくするには、誰かに任せておけばよいということではない。みんなで力を合わせて取り組まなければよくはない。

【講義の主なポイント】

- ・生協は、協同組合の1つであり、人と人との結びつきによる非営利の協同組織である。国際協同組合同盟（ICA）は、107ヶ国で308組織が加盟しており12億人が加入している世界最大のNGOである。
- ・協同組合の誕生はイギリスで起こった産業革命の時代である。当時、労働者にとって不利益が多く、労働者自身が出資・利用・運営するロッチデール公正先駆者組合を設立したのが始まりである。その組合原則が協同組合原則の基となっている。日本での生協の歴史は、賀川豊彦氏に始まる。貧しい人たちの暮らしを変えるために尽力し、日本各地で生協が生まれる足がかりとなった。戦後、物資が不足する中、全国で生協の設立が相次ぐこととなる。
- ・1960年代以降、消費者の困りごとは時代によって変わってきた。それぞれの時代の組合員の願いに生協は事業と活動で対応してきた。
- ・コープ商品は、組合員の暮らしを受けとめ、組合員と共に考え進化していく。自分たちだけでなく周りにもよいこと、社会にもよい影響を与えられるようエシカル消費をすすめている。
- ・生協は企業と異なり、よりよい暮らしを実現するために様々な事業をおこなっている。そのために事業分野をひろげていくことも必要になる。全国の生協で事業と活動を通じた社会的な取り組みがすすめられている。例えば、震災復興での物資配送支援などの地域貢献、買い物が不便な地区住民のライフライン、インフラを活用した地域見守り活動、高齢者・障がい者や生活困窮者への支援、環境・エネルギーの取り組み等がある。
- ・今の社会は、誰かに任せておけばよいということではない。これまでの経験を活かし、みんなで一緒に力を合わせて取り組まなければならない。

第14回講義…受講生の感想レポート (一部抜粋)

Aさん (2年生)

各生協が独立してそれぞれの地域で活動をすすわけではあるが、共通する理念をもって協力し合えればより良い活動が出来るということだ。「つながり」について考えさせられた。生協を生協のつながり、生協と他の地域の他の団体のつながり、そして生協と他の地域住民とのつながりなど様々なつながりの中で生活の向上という共通目標をもって活動することが「平のら」のこの講義も踏まえ、今回再度考えたことは、自らの生活、暮らしを少しでも良いものにしようと考えるのであれば、自分もそのために活動することが大切である、すなわち協同組合の活動に参加し、組合員の一人としてできる範囲で積極的に取り組むことが必要であるということだ。

「余裕がある人が余裕のない人を助ける」というのは、「全2の人が助けたら助かる」というのが、とても印象深く残りました。

Bさん (3年生)

各生協が独立してそれぞれの地域で活動をすすわけではあるが、共通する理念をもって協力し合えればより良い活動が出来るということだ。「つながり」について考えさせられた。生協を生協のつながり、生協と他の地域の他の団体のつながり、そして生協と他の地域住民とのつながりなど様々なつながりの中で生活の向上という共通目標をもって活動することが「平のら」のこの講義も踏まえ、今回再度考えたことは、自らの生活、暮らしを少しでも良いものにしようと考えるのであれば、自分もそのために活動することが大切である、すなわち協同組合の活動に参加し、組合員の一人としてできる範囲で積極的に取り組むことが必要であるということだ。

「余裕がある人が余裕のない人を助ける」というのは、「全2の人が助けたら助かる」というのが、とても印象深く残りました。

Cさん(2年生)

パンの詐欺が話題になった今日において、人々が「よりよい生活」をするために自ら重荷を背負っている、という言葉に人の積極性を感じました。活動が続いていることに、生協は私たちの生活に必要不可欠であると感じます。また、興味を持った話題が「エシカル商品について」です。どうしても出費は減らしたいと思ってしまうので、似たものであれば安いものを選んでしまうのですが、値段が上がる商品の裏側に何か倫理的な目的があるのであれば、そこまで考慮する必要はない、と思えた国に生まれた私の責任として、あるなと思いました。また、COOPが今日の映像で見たようにとても食品に力を入れていることは初めて知りました。たしかに、親同士の会話でたまに聞くことのある「あったの?」これは「なう?」と(可成りの意)おどろき、気になります。講義を重ねるにつれて、将来の自分に必要な取り組みであるだけでなく、もう既に関係があって向き合っている必要がある課題と生協はとて密着であることと自覚します。

Dさん(2年生)

今回、お話を聞いた、改めて生協とはどのような組織なのか、またその取組についてお伺いし、生活協同組合が人のつながりを基盤として地域民主体制で存在していることを再認識しました。社会生活に不便を感じている人々を助けようという想いが、全ての事業の根底に流れている、例えば自分の利益に繋がらなくても取組を行っていく源動力になっているのを感じました。景気の悪化による行政への不信感、地域的つながりの薄れによって個人が孤立し不安感の漂う現代社会で生活協同組合の実情に対応した温もりのある支援は今後重要は役割を担っていくことを実感し、私たちに与えられた生協の存在意義を意識しながら利用の幅を広げたいかなければならないと痛感しました。

Eさん(4年生)

子育て、高齢者、障がい者への支援はこれからより一層必要になってくると思うし、自治体との協力により活動が広がることを求めていると思う。

子どもの居場所づくりの例にあったように、行政支援の行き届きにくいところの支援を生協からこそ可能だと感じた。

Fさん(2年生)

時代によって組合員が望むものは変わるので、生協はそれぞれの時代、世代ごとの組合員の声を取り入れ、ニーズに合わせて商品を提供できるように努力していることが分かった。だからこそ大手メーカーにも負けられないほど発展して消費者の生活に必要とされる存在になったのだと思う。また、商品の提供だけでなく子育て支援や配達など、地域住民を助けたいための事業を幅広く展開しているのが、生協はとて素晴らしい存在に思う。現代は人と人とのつながりが薄れている傾向にあるので、助け合いによって活動している生協は今後さらに重要になると考えられる。

Gさん(3年生)

生協が協同組合として発展してきた中で、思えばとても大きな影響を社会に与えてきたのだなと感じました。組合員の生活を何よりも大切にしているからこそ、環境・安全・食の安全・平和...その他ニーズに目を向けて活動しており、「あるべき社会」へと善く存在になっ
ていると思います。資本主義の中利益向上ばかりを求める視点からは、この活動について「コストのかかる活動」と敬遠してしまうはずですが、しかし、それでも「あるべき社会にとって不可欠な活動」と認識しながら活動した結果、組合員や国民が「暮らしやすい社会」を求めたいける健全なシステムがつくられたように感じました。

Hさん(3年生)

私たちが守る商品を作り、利益優先の会社に貢献すると、どこかで負荷がかけられて苦しんでいる人がいるという状況がある限り、私たちはとれど正しく理解して行動を為さないといけないと感じた。